

ビール大麦技術資料 12月号

令和3(2021)年 12月 1日
下都賀農業振興事務所

重点ポイント

- ①湿害対策を実施しましょう！
- ②2.5 葉を過ぎたら、麦踏みを始めましょう！
- ③生育の進んだほ場では、年内の麦踏み 2 回実施を！

1 生育概況と気象の経過（小山市アメダス）

平年に比べて 11 月は気温が高めで、日照時間が多く推移しました。また、11 月 9 日と 11 月 22 日にまとまった量の降雨がありました。

ほ場ごとの生育状況をよく確認して麦踏みを始めましょう。

	11/1-10	平年差・比	11/11-20	平年差・比	11/21-30	平年差・比
平均気温	14.5℃	+1.9℃	11.0℃	+0.5℃	11.5℃	+0.9℃
降水量	28mm	128%	0.0mm	0%	49mm	77%
日照時間	68 時間	128%	80 時間	151%	219 時間	137%

2 気象庁の 1 か月予報（11 月 25 日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	関東甲信地方	向こう 1 か月 11/27~12/26	40	30	30
		1 週目 11/27~12/03	30	50	20
		2 週目 12/04~12/10	40	40	20
		3~4 週目 12/11~12/24	30	40	30
降水量	関東甲信地方	向こう 1 か月 11/27~12/26	40	40	20
日照時間	関東甲信地方	向こう 1 か月 11/27~12/26	20	40	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

今年の冬はラニーニャ現象が発生しています。
この影響により、平年よりも気温は低くなり、降水量は少なくなる見込みです。



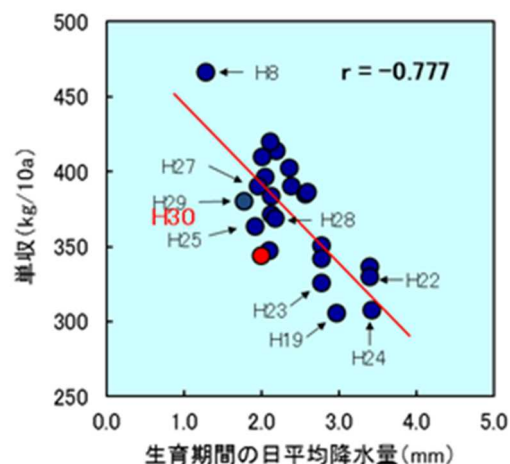
3 これからの栽培管理

◎湿害対策を実施しましょう

生育期間の降水量と麦の単収との関係を見ても、雨が多い年ほど低収になっています（右図）。

つまり、単収を確保するためには、十分な湿害対策が重要となります。

近年は短期間にまとまった雨が降ることが多くなっています。排水対策をおろそかにすると、ほ場に長時間滞水してしまい湿害を起こします。



麦単収と降水量との関係

(平成6年産～30年産、ただし、平成26年産は穂発芽被害のため除く)

外部の排水路としっかり連結して、ほ場排水に万全の対策をしましょう！

排水対策を実施していないほ場では、播種後の早いうちに排水溝（明きよ）を設置し、必ず排水口を排水路に繋がしましょう。すでに排水対策を行っているほ場でも、排水口がほ場外の排水路に繋がっているか確認しましょう。



幅広で深い額縁明きよ



明きよを排水路に繋ぎ
確実な排水対策を！



◎麦踏みを始めましょう

ほ場ごとに生育にばらつきが出ることも考えられるため、しっかり葉齢を確認して麦踏みを行ってください。

2.5 葉前に行うと、葉を切ってしまうとその後の回復に時間がかかる等、悪影響が起こる場合があります。

麦踏みには過剰生育を抑制しながら、分けつを旺盛にし、根張りを深くする効果があります。また、霜柱による凍上害を防止します。

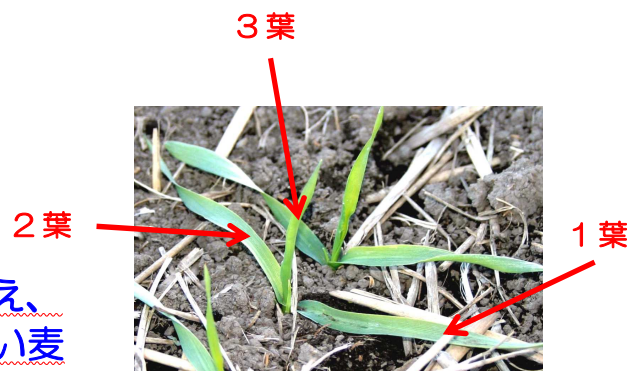
目安：合計 4～5 回

1 回目・・・2.5 葉期以降

2 回目以降は前回の麦踏みの 2 週間後

最後・・・茎立ち期直前

※茎立ち期直前の麦踏みは早すぎる茎立を抑え、穂揃いを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。



2.5 葉過ぎたら麦踏み可能です！



麦踏みは軽量の車両で！



- 重量のある大型トラクター等で行う場合は、接地面積を大きくするよう工夫しましょう。
- 土壌水分が高いときは、土壌が固くなり生育不良を招くので避けましょう。



農業機械を使用する時は、転落・転倒等の事故のないように十分注意しましょう！



問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>